令和８年度　授業改善推進プラン（課題分析と授業改善策）　　２０２　小竹小学校

	課題分析	授業改善策
１年	・10 までの数の合成・分解で指を使わないと答えが出せない。また、答えを間違えることもある。	・「５は３と２」「３に２を合わせると５」など声に出して復唱する機会や、計算カードでの１０までの足し算、引き算を繰り返し行う練習に毎時間組み込む。
	・自分の考えを言葉やブロックで「どうやって計算したか」を説明することが難しい。	・「まず、○○します」、「次に、○○になります」などの発言の型を提示し、繰り返し活用する。
	・足し算は「あわせる」、「ふえる」、引き算は「のこり」、「ちがい」の意味を理解できていない。	・ブロックを動かす動作と「あわせると」という言葉をセットにして提示する。また「取り去る（求残)」と「比べる（求差)」の違いを、具体物を見せながら丁寧に繰り返しお話化する。
２年	・単元の確認テストでは平均９割以上が取れているが、学期末のまとめテストの点数は９割を切ってしまう。８割を切る児童も 20%を超えてしまう。学習したことが定着していない児童がいる。	・定着を図るため、教科書の「おぼえているかな」や補充の問題を活用して、定期的に習熟の時間を設ける。可能な限り習熟度に分け、少人数で算数を行う。
	・小問や単純計算はできるが、文章題など思考力を問う問題になると立式ができないことがある。既習事項を生かした問題解決が十分にできていない。	・授業内での問題を解決するときにも、図を描いたり、ブロックなどの半具体物を使ったりして、場面や量感を視覚的に理解できるようにする。
	・個人差が大きく、進度に差がついてしまう。	・進度の速い児童が進度のゆっくりの児童に教える機会を設ける。また、習熟時は、課題プリントを複数用意する。
３年	・既習事項の理解や習熟に個人差があるため、学習した内容の定着に課題がある児童が多い。	・少人数の良さを生かし、課題のある児童に優先的に関わり、個別に指導し、学習内容の定着を図る。
	・かけ算九九の習得が定着していない児童がいる。	・隙間時間に個別にかけ算九九の練習を行い、定着を図る。
	・時刻と時間の求め方では、時刻と時間の概念の理解が曖昧なため、正しい時刻や時間を求めることが難しい。	・日常生活の中で時刻や時間を常に意識させ、正しい時刻や時間の概念を理解させ、時刻や時間を日常の生活で生かせるようにする。
	・たし算とひき算の学習では、位ごとの計算でくり上がり、くり下がりの計算でつまずいている。	・くり上がり、くり下がりの計算を重ね、正しい計算ができるようにする。
	・長さの測り方では、単位換算を伴う計算が難しい。	・単位換算を意識させ、単位の大きさを実感させる。
	・棒グラフと表の学習では、表内の合計や全体数の計算のつまずきが見られる。	・表内の計算を正しくできるようにするため、枠内の数字の確認や合計数を前もって意識させる。

4年	・東京ベーシックドリルでは、文章題の関係を図や□を使った式で表す設問と円の半径の性質を使った作図の問いで誤答が目立った。また、50 分前、50 分後の時刻を求める問いでは、誤答が多いだけではなく、午前・午後の書き忘れが目立った。３つの設問で、正答率 50%を下回った。全体を通しての満点率は 10%だった。 ・1 学期のワークテストでは、知識・技能の正答率が 86%、思考・判断・表現の正答率が 78.5%だった。大きい数のしくみ、角の大きさ、小数のしくみの単元のように、「しくみの理解」が問われる内容で誤答が目立った。 ・答えに単位を書き忘れている解答が目立つ。また、文章題ではかける数とかけられる数が逆になっている式、単位を書いている式などの課題が見られた。 ・かけ算九九の定着、繰り下がりの計算といった既習の習熟に課題がある児童や計算に時間を要する児童も多い。	・問題解決の過程で、自分の考えを図、表、言葉で表したり、発表したりする活動を大切にする。正解・不正解という結果のみに意識が行く児童が多いので、その視野を広げていくためにも、「なぜ？」の問いを大切にした学習過程にする。 ・筆算で正しい答えを求めることや分度器を適切に使っての作図については、こたけタイムや学びポケットを活用しながら、定着が図れるようにする。 ・基礎的・基本的な計算をする機会を継続的に設ける。 ・学習感想を書く時間を確保し、自分の学び方を振り返る機会を大切にする。
5年	・小数の筆算による計算技能の定着が十分ではない。 ・四捨五入の意味を理解し、目的に応じて概数を求めることにつまずきが見られる。 ・面積を求める際に、図形を分割したり、既習事項を活用したりして考えることが苦手である。 ・直方体の辺や面の位置関係を空間的に捉えることに難しさが見られる。 ・小数のかけ算やわり算の学習において、数直線や図を活用して数量の関係を表したり、考えたりすることに難しさが見られる。	・小数の計算では、計算手順だけでなく、位の意味や数の大きさを意識できるように、反復練習を行い、計算技能の定着を図る。 ・概数の学習では、数直線や位取り表を活用し、どの位に着目して四捨五入するのかを考える活動を通して、概数の意味理解を深める。 ・図形を分割・補完して考える活動や、図・式・言葉で考えを説明する活動を取り入れ、既習事項を活用して問題解決する力を育成する。 ・立体図形の学習では、具体物を操作したり、見取り図や模型を用いたりする活動を充実させ、辺や面の位置関係を正しく捉えられるようにする。 ・小数のかけ算やわり算では、数直線や図を活用して、もとの量と比べる量、倍の関係を捉えながら立式する活動を取り入れる。 ・自分の考えを図や式、言葉で表現する場面を設定し、考えの根拠を説明する力を育成する。

6年	・割合を使う問題（混み具合や比など）では、もとにする量が判別できず立式につまずいている。	・問題文を読んですぐに式を書かせるのではなく、「数直線を描く」ことを立式のステップとして定着させる。また、いきなり数字で式を作らせず、まず「言葉の式」を書かせることで、どの量がどこに入るかを整理させる。
	・グラフの軸の意味を正しく理解できていない児童がおり、数値の変化から前後を推測する思考力も全体的に不足している。	・グラフを見る際、横軸や縦軸が表している内容や１目盛りの大きさを指でなぞりながら確認させる。単なる数字の並びではなく、「気温のグラフなら、なぜ昼間は上がるのか」など理由と関連付けて読み取らせる。
	・作図をする際に、長さや角度を正確に測る事ができない。問題に対して、どの描き方を用いればいいのか判断できない。	・コンパスや分度器の使い方を改めて練習する。（基礎基本の定着）問題文をよく読み、必要な角度や長さを読み取り、それに合った道具を選ぶようにさせる。
	・約分が最後までできず、途中で終わってしまう。また公倍数や公約数を見つけることができない。	・答えが出た段階で、「分子と分母、まだ両方割れる数がないか」を確認するルーティンを作る。小さな数で刻んで約分するのではなく、分子と分母の最大公約数を最初に探す練習をする。公倍数は「大きい方の数の倍数」を考え、公約数は「両方を割れる数でどんどん割っていく」など、一番確実な方法を伝え、練習していく。
	・計算の工夫や分配法則の問題で解き方が分からず、そのままの式で計算しようとする児童が多い。	・工夫する事で計算が楽になり、ミスが減り、短い時間でも解ける事を伝え、繰り返し練習問題に取り組む。
	・人口密度の問題は桁数が多く、正答率がいつも低い。	・桁数が多くなると、途中から計算が分からなくなるため、一つ一つの計算を正確にできるように大きな数の筆算練習をする。